

プラハ日本人学校



チェコ
プラハ

小学部5年 プラハウォークラリー



旧市庁舎の天文時計



Japonská škola v Praze

URL <http://www.jpsschool.cz>
児童生徒数 小=74人 中=15人

百塔の街プラハ

現地の教育環境

プラハは、十四世紀には神聖ローマ帝国の首都としてヨーロッパの文化的中心となった。街にはプラハ城やカレル橋をはじめとする歴史的建造物が当時のまま残っている。

チェコは一九八九年の「ビロード革命」によって民主化が進み、二〇〇四年には欧州連合(EU)に加盟。EU圏内で自由に行き来ができるようになった。日本企業にも門戸が開かれ、本校の児童生徒数も二〇〇八年には一四五人にまで膨れ上がった。リーマンショックで経済が一時停滞し児童生徒数も減少したが、その後経済は順調に推移している。

街には音楽があふれ、「プラハの春 国際音楽祭」や日本の若手演奏家も招かれる



校舎

「国際音楽祭 ヤング・プラハ」など、世界的な演奏にも触れることができる。本校に通う子どもたちの七〇パーセント以上がチェコに住んで楽しいと答えている。

本校の特色

プラハには、アメリカ系やイギリス系のインターナショナルスクールが多くあり、特に日本人が多く通うインターナショナルスクールは市内に四校ある。義務教育段階の日本人の子どもの四分の一弱が通学している。こうした学校の高校課程はいずれも四年で、特に最後の二年間で国際バカロレア課程を修了できる。

「プラハの歴史に学ぶ」

本校の伝統行事「プラハウォークラリー」は、歴史豊かなプラハの街を児童が探索するものである。地図を持って市内を巡り、名所旧跡ごとに出来る課題をチェコの人に尋ねたり答を探したりして解いていく。小学部一年から始まる「チェコ文化理解」の授業が、この行事に大いに役立っている。



小学部1・2年
クリスマスマーケットで買い物



小学部4年 地域行事・夏を惜しむ会に出演



学習発表会



国際音楽祭ヤング・プラハを全校で



現地のギムナジウムとの教師交換授業



中学部3年 現地の中学生と理科の合同授業

子どもたちから
校舎がクラウン、体育食室はせまいけど生徒の心は広い。(小6)
この学校の校歌がとても意味だよ。(小6)
外国との交流の機会がとても多く、現地の人の交流の機会も多いです。(中1)



小学部4年 地域行事・夏を惜しむ会に出演

また社会科見学では、酪農家やブルタバ川から取水する浄水場、ボヘミアングラスの工場などを訪ねて学習する。修学旅行は、小学部ではドレスデン、中学部ではベルリンに行くが、平和学習の一環として事前にチェコのリディツェ村(平和祈念式典が毎年開催される)やテレジン収容所などで学習を行っている。

■現地校との交流

公立の基礎学校をはじめ私立のギムナジウムや幼稚園と、児童生徒の交流を行っている。スポーツやレクリエーション交流、お祭りや祝祭日などについての文化交流を行い、双方の学校を行き来している。コミュニケーションツールとして、すべての学年で英会話の授業を設けている。またギムナジウムと教師の交換を行っており、現地校の先生はチェコ語やチェコの歴史・文化

■子ども同士のつながり

小さな学校なので、九学年の児童生徒が学校の中でいっしょに活動する場面が多くある。運動会や学習発表会など学校内の行事だけでなく、小学部四年以上のスキー教室では二泊三日の生活の中で、またインストラクターの英語によるスキー実習でも上級生が下級生の面倒をよく見ている。(二〇一六年二月現在)